

## 英明な首長は現代の信長 !?

砂漠の楽座は大にぎわい



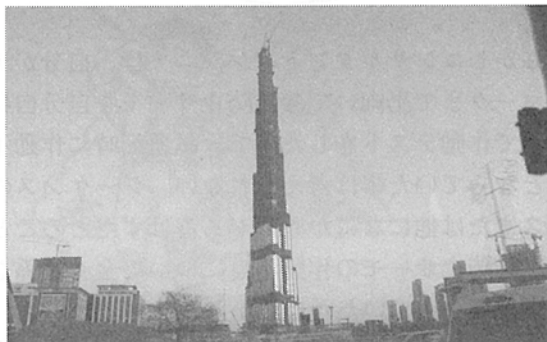
東京冷凍空調事業協同組合 理事長 沖原正宜

「ドバイはどないや」とか「ドバイはやばいか」とか最近やたらと写真や記事が目につくところなので、百聞は一見に如かず、我が事業協同組合、理事一同でとりあえず見てこようと企画した訳です。

とにかくお金持ちだけ来てくださいというところですから、どうせならベストシーズン（9～3月）の12月に、しかも先方のご要望どおり成金趣味を味わってやろうと、飛行機もホテルもレストランもゴルフ場もガイドも一級品で揃えました。7ツ星（世界に一つだけ）ホテルのバージュ・アル・アラブは、滞在中にホテル内で200万円以上使うことと条件付けられましたので、宿泊はあきらめました。食事だけはしましたが、さすがにいたれり、つくせりのサービスと一見ド派手なインテリアでした。もっとも世界の上流階級の人々はこの程度で驚きもしないのでしょうか。ドバイ入りしてビックリしたのは、いつでも、どこでもいたる所、工事中。

世界中のクレーンの4分の1がドバイに集まっていると言われている状況は、身近に汐留で見てきた再開発の数千倍の規模に思えました。しかも汐留再開発に要した期間くらいで全部片付けようということですから、とにかく想像を絶するスケールと猛烈なスピードといえます。昔、砂漠だったところが5～10年後にはラスヴェガスとニューヨークとハワイとシンガポールを一緒にして半掛けしたような姿になっているのでしょうか。特にフリーゾーン（経済特区。関税を含め無税だとか。手数料3%程度は取るらしい。）の企業群の成長については私の想像力の限界をはるかに超えていることでしょう。

進行中のプロジェクトをみても、高さ世界一のビル「バージュ・ドバイ」、世界地図を模したモザイク状の人工別荘島「ザ・ワールド」（ちなみ



世界一のノックビル バージュ・ドバイ



超高級ホテルバージュ・アル・アラブ

に日本は東京島の名称で、48億円で中国人が買ったそうな。) また、完成間近の世界最長の自動無人鉄道「ドバイ・メトロ」（「ゆりかもめ」のようですが、日本のゼネコンが施工しています。日本のゼネコンは当初割高と見られ、欧米企業に負けて受注できなかったようですが、設計どおりで変更・追加も少なく納期も守るということで、今ではむしろ評価が高まっているそうです。) そしてかの有名な「パーム・ジュメイラ」（椰子の木をかたどった人工リゾート島。ベッカムやクリントンも購入済みとか。)

その他世界一のショッピングセンター「ドバイ・モール」、世界一の「マクトゥーム国際空港」等々。何でも世界一。

無尽蔵な水（アラビア湾の海水の淡水化、ただ



まだまだ続く建設ラッシュ



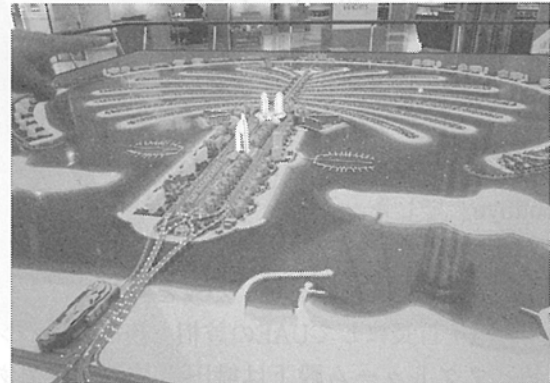
淡水化で砂漠でも水は無尽蔵

し対岸は何かと物騒なイラン)と豊富な電力(石油火力)を使って何もない砂漠に自在に描くわけで、英明なる現首長の開発独裁でリードしている間は素晴らしいものが出来上がると思いますが、その先はわかりません。

入れ物(ハード)が立派でも中身(ソフト)が未熟ですから、やはり最後は人の教育が勝負の分かれ目でしょう。隣のアブダビ(ドバイからは車で2時間足らず。)にも行ってみましたが、じつくりと30年~40年かけて育てた緑の多い落ち着いた雰囲気、ドバイに先立って離陸(テイクオフ)し、安定航行に入っている感じでした。ルーブル等の美術館の分館や欧米の有名大学の分校を設立することが決まっています、文化レベルの向上と人材の育成に目を向けていることがわかります。ドバイもいずれその方向にハンドルを切るはずで

帰路、機中でいろいろ考えました。

- ①隣のアブダビは世界の原油埋蔵量の10%を握る原油収入の国、一方ドバイは原油収入は少なくてたかだかGDPの5%といわれているのに、何であれだけのことがやれるのか。
- ②日本ではよく自転車操業というけれど、ドバイはジェット機操業なのか。墜落する時が来るのか。
- ③あのスケールの発想は日本人には所詮無理なのか。箱庭と砂漠の違いなのか。遊びが足りないせいなのか。
- ④日本のスピードが上がらない原因(ブレーキ役)は法律なのか、役人なのか、民間企業のトップなのか、サラリーマンもそうなのか、日本人自身なのか。
- ⑤規制緩和さえすれば世の中のスピードは上がる



次々に生まれる建設プロジェクト

のか。日本にとっての最適なスピード感はどの辺なのか。

- ⑥あれだけの企画とアイデアが首長の構想力だけで湧くものなのか。世界中の知恵を集めているのか。勝手に集まるのか。
- ⑦日本のゼネコン、サブコンも国内の小さな仕事は我々に任せてドバイもビックリの企画を提案して荒稼ぎしたらどうなのか。そんなアイデアは何かないのか。
- ⑧豪華絢爛の極みを見たけれど、だからどうなのか。すぐランニングコストを思うのは冷熱業界に身を置く者の習性故か。コストといえば削減ばかり、逆にコストをかけて大きく回収する発想も持つべきなのか。
- ⑨日本の画一化されたデザインの沈滞感はどうやったら払拭できるのか。いつか大胆で明るいデザインが見られるのか。
- ⑩上海との比較を考えると中国人より湾岸のベドウィンの人々の方がはるかに大局感、先見性、開放性に富んでいるのは、やはり砂漠のせいなのか。遊びの経験の差なのか。
- ⑪水も電気も明らかに上海よりドバイの方が条件が良いはずだが、両者は今後どう変化していく

のか。両者を比較すること自体が馬鹿げているのか。

- ⑫とにかく税金を下げれば下げる程繁栄することは確かなことなのか。また、金が先か、知恵が先か、それともトップ次第なのか。
- ⑬ドバイ人は人口150万人の20%未満。全て自前でやれないところがむしろ発展の理由なのか。
- ⑭我が組合も小粒なので、何かドバイからヒントが見つけれられるのではないのか。
- ⑮その他・・・とか。・・・とか。

とか何とか、答えの出ぬままビジネスクラス（エミレーツ航空）の旨いワイン（4種類全てを味わって）でウツラウツラ、あっという間に「ドバイ Goodbye」でした。

時差ボケも消えた数日後、ハッと気がついた。

「ドバイ首長にしてUAEの首相も務めるムハンマド・マクトゥーム殿下は織田信長の再来である」と。とにかく似ている。

例えば、

- 1. アイデアはあくまで独創性に富むものを好む。しかも派手好き。
- 2. スケールは常に最大を求める。
- 3. スピード感には限界がない。
- 4. お互いに小国からのスタートである。しかも若い時からリーダーである。
- 5. 楽市楽座とフリーゾーンの共通性。
- 6. その他、実行力、行動力、進取性、宗教観等々。

とすれば、以下の予測が成り立つ。

- 1. 彼は情報あるいはアイデアの提供者に最大の報酬を与えるだろう。
- 2. 独創的で世界最大の企画を提案すれば喜ぶであろう。
- 3. 企画通りの結果を出せば、そして予想以上のスピードで仕上げれば、気前良く利益の大半を与えるだろう。
- 4. 人使いは荒いだろう。ただし、できる奴には出自、年齢を問わずどんどん大きな仕事を与

えるだろう。

- 5. 目先の利益よりも余人の及ばぬ大きな構想を描き、当面は常に結果とスピードを要求するであろう。

以上のことから窺える彼の戦略は「パートナー（外国企業、部下等）に利益の過半（あるいは大部分）を与えることで求心力を強め、アイデア、ヒト、カネが継続的に流れ込み、プロジェクトの完成と共にさらにカネ、ヒト、アイデアが集まる、言ってみればプロジェクト連鎖のスパイラルシステムを作ること」と見た。最後に、我が組合にも、また我々冷熱業界にも参考になるかとも思われる点を上げてみれば、

- ①まずは大きな構想を描くこと。そして抱き続け、練り続けること。
- ②パートナーにできるだけ多くの利益を配分すること。
- ③できるパートナーには更に大きな仕事をやらせようこと。
- ④常に結果とスピードを重視すること。
- ⑤情報とアイデアの提供者に最大の敬意と報酬を払い、我々も提案力に磨きをかけること。
- ⑥時代の先端をいく企画やデザインをただ派手と片付けてはいけないと思う。そこに潜む先進性とチャレンジ精神を感じ取ること。

と、まあこんなことでしょうか。

アメリカ発、中国経由の経済波乱、原油高からの資材値上げ、はては建築確認申請の影響など、今年はおとな年ではありません。

そんなことでヘコタレル訳にはいきません。だからこそ「ドバイに負けず、我々も楽しく派手にやりましょう。」ということで本文の締めといたします。  
(写真提供・宮脇法彦氏)

#### 付記

期 間：平成19年12月8日～13日  
参加人員：当事業協同組合理事6名、他1名  
宿泊ホテル：ジュメイラビーチホテル

以上